

第9回休眠預金等活用審議会ワーキンググループの議論の概要

＜全般について＞

- ヒアリングを通じ各団体の頑張りなどが分かってよかった。JANPIA が PT を設置し今後、改善していくことを歓迎。WGにも途中報告頂き、次回募集までに改善できるよう、スピーディにPDCAを回してほしい。（同旨ご意見複数あり）
- この制度は社会実験であり、「今まではこうだった」と頑なにならず、柔軟に、相互に高い敬意を持ち臨みながら、変えるべき部分は変えていくべき。もっと様々な団体が算入することを期待。
- 厳しい意見の団体もあったが、一緒にどう休眠預金を活用するか考えていきたい。草の根の団体の底上げにつなげることも大事。三層構造の利点を活かしつつ、本当に良いものにしていく段階だと思う。（同旨ご意見複数あり）
- 資金分配団体、実行団体、JANPIA 等が休眠預金のフレームで日本を変えていくコミュニティ、さらには誰かの成功を皆で喜ぶ「ファミリー」を目指すとうまいブランディングになると思う。
- 休眠預金が力のある団体だけでなく地域に根差したところへ届き、誰ひとり取り残さないとの心で皆が考えることが大事。新たな活動の最初をサポートすることで、住民も成長し新しい価値を生むと思う。
- ヒアリングを通じ、立派な団体ほど経験と違う方法に一言、となると感じた。JANPIA では、①変えるべきこと、②走りながら一緒に考えていくこと、③コンプライアンスやガバナンス上しっかりやるべきこと、この3つに分けて、話を聞いたりフィードバックして頂くのが良いと思う。

＜簡素化、負荷軽減等＞

- 課題は書類の煩雑さ。JANPIA は事務処理のバックオフィス機能を強化するとのことで、既に改善に向けて動いていることを歓迎。
- 実行団体も様々なレベル感がある中で、特に実行団体は少し書類を

簡素化し、例えば資金分配団体が記入するとか、マルバツで済むなど、負担の軽減方法を考えてほしい。（同旨ご意見複数あり）

- 不正はあってはならないが、過度な制約にならないようバランスが必要。不都合があれば変えていく、オープンにしていくとよいと思う。
- 自己資金比率 20%は努力目標だと思うが、口座管理も含めて徒労感につながっている。実際に赤字になっているとか、次回申請に抵抗がある等を聞く。改善点は改善していく必要があると思う。

<伴走支援、その他>

- 伴走支援には、1つは経営上・進捗管理上の事務管理支援、もう1つは実行団体や資金分配団体が自立していくためのマネジメントやガバナンスの支援の2つが大切だと思う。JANPIA の案のバックオフィス機能確保は事務処理削減に有効だろう。ガバナンスやマネジメント支援には外部専門家の活用も有効であり、データベース化できれば今後にも活かせるのではないか。
- 経験上、行政と現場は様々なコミュニケーションを重ねる中から、次の活動や解決方法を見い出したりする。顔を合わせることで、次の価値を生むことができるので、月に1回の面談はやってほしい。
- 実行団体の方の発表の場を設けることは、相互に解決策を見つけたり連携したり、有効だと思うので検討してほしい。
- 3年間の事業の継続性に関し、採択できなかった団体について、別の資金分配団体が拾い上げることができるか、あるいは、当該分配団体が次のテーマで拾い上げていくかも検討事項だと思う。
- JANPIA の職員や PO が一人で抱え込まないよう、お願いしたい。